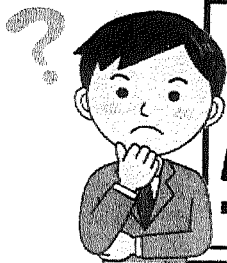
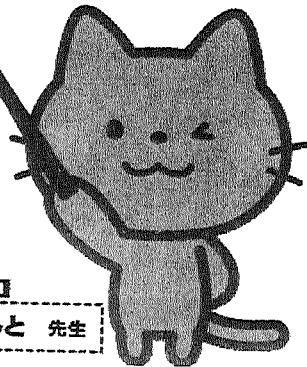


ニヤニヤ にゃんと！そうだったのか No. 005

退職後働かずに生活できるの？ 生活費っていくらぐらい？

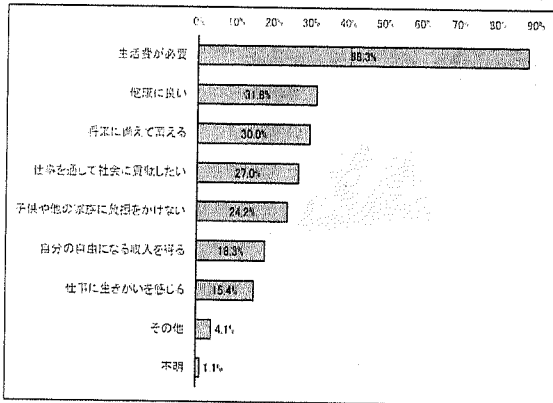


おしえ てえや くん



にゃんと 先生

図2 定年退職後も働きたいと思った理由 (複数回答) (計2,112人)

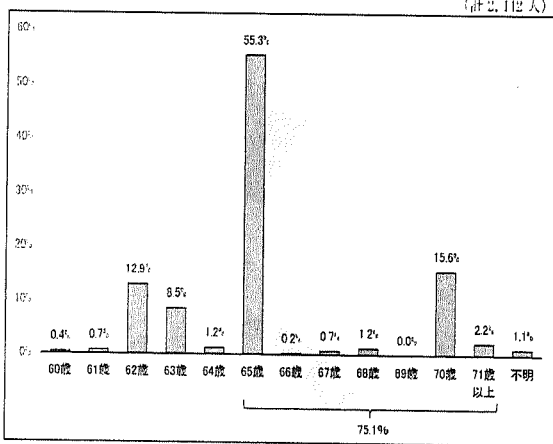


定年後働かないと生活できない
定年退職時の就労希望

「実は三月三〇日、人事院は「平成二九年定年退職公務員生活状況調査の結果について」を発表したんだ。この中で、今後の高齢者雇用制度として「定年年齢の引上げ」が適切と回答した者が約八割、そのうち約八割が定年年齢を「六五歳」と回答しているらしい。
定年延長は二ノズに沿ったものなんだね。

「にゃんと先生、定年延長に対する国公労連の主張が東海三一八四号まででいいんだけど、退職者の実態はどうなの？」
「実は三月三〇日、人事院は「平成二九年定年退職公務員生活状況調査の結果について」を発表したんだ。この中で、今後の高齢者雇用制度として「定年年齢の引上げ」が適切と回答した者が約八割、そのうち約八割が定年年齢を「六五歳」と回答しているらしい。

図4 定年退職時に働き続けたいと思った年齢 (計2,112人)



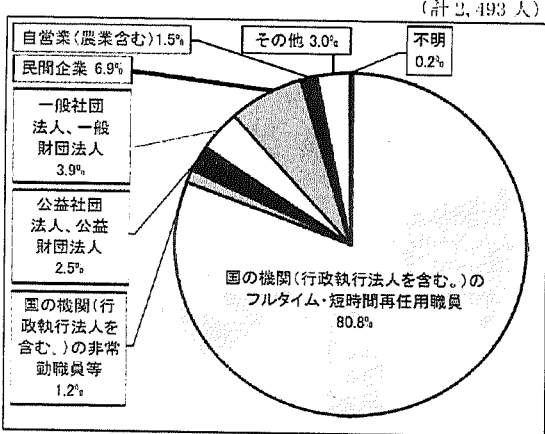
就労先・勤務形態はキヤップが
実際の就労先では国の

「この年齢で役職加算部分の年金が支給されるからだろう。」
「民間企業って結構少ないですね。」
「この年齢で役職加算部分の年金が支給されるからだろう。」

「働きたいと思った」と答えており、前回(H二六)より六ポイント増加している。理由は図二のとおり、生活費がダントツだ。
また、働き続けたいと思った年齢では、図四のとおり六五歳が最も多いが七〇歳以上も約一八%に上っている。

本紙のグラフ等は「平成二九年定年退職公務員生活状況調査の結果について」(H30.3.30人事院給与局生涯設計課)より引用しています

図13 現在の就労先 (計2,493人)



民間企業って結構少ないですね。どうも建設職場とはギャップがあるようだね。図一四のとおり、勤務形態でも国の機関の再任用職員の半数超がフルタイムで働いているようだからね。

民間企業って結構少ないですね。どうも建設職場とはギャップがあるようだね。図一四のとおり、勤務形態でも国の機関の再任用職員の半数超がフルタイムで働いているようだからね。

図14 現在の勤務形態 (国の機関の再任用職員2,015人、民間企業等286人)

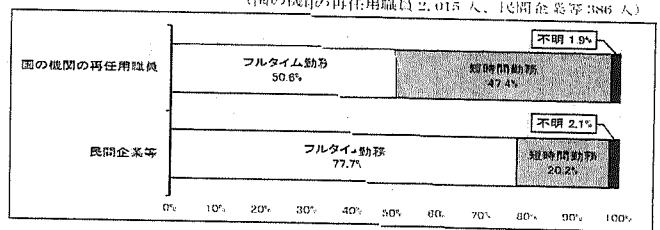


図21 仕事内容・ポストにおける知識・経験の活用 (計2,015人)

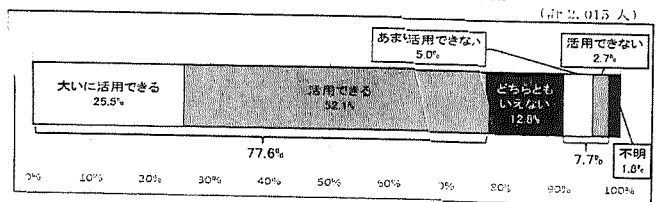
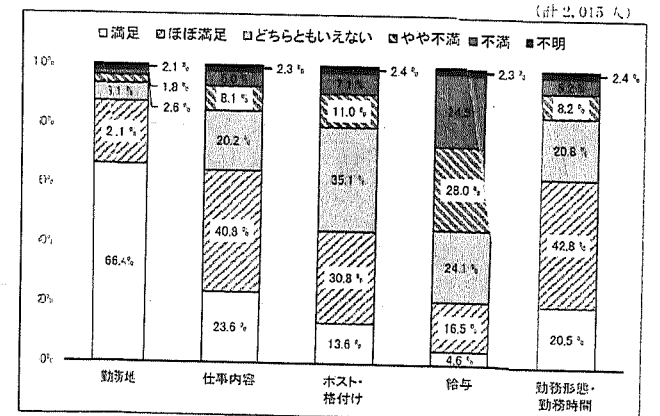


図22 再任用についての満足度 (計2,015人)



「勤務地」では満足度が高い一方で、「給与」「ポスト・格付け」では満足度が低く、低い職階で低賃金で任用されている実態への不満

給与・ポスト・格付けで不満多数

「図二二の満足度では、」
「勤務地」では満足度が高い一方で、「給与」「ポスト・格付け」では満足度が低く、低い職階で低賃金で任用されている実態への不満

現役時の知識・経験の活用義務
職場環境的にはどうなんでしょうか？
「図二一にあるように国の機関に再任用されている職員の約七八%が現役時の知識・経験が活用できるとしている。一方で、人事院は触れていないが、八%弱の者が「活用できない」、一三%の者が「どちらともいえない」と答えており、有効な人材活用の面からは問題がある結果だ。」

図23 再任用という働き方の課題や問題点 (複数回答) (計2,915人)

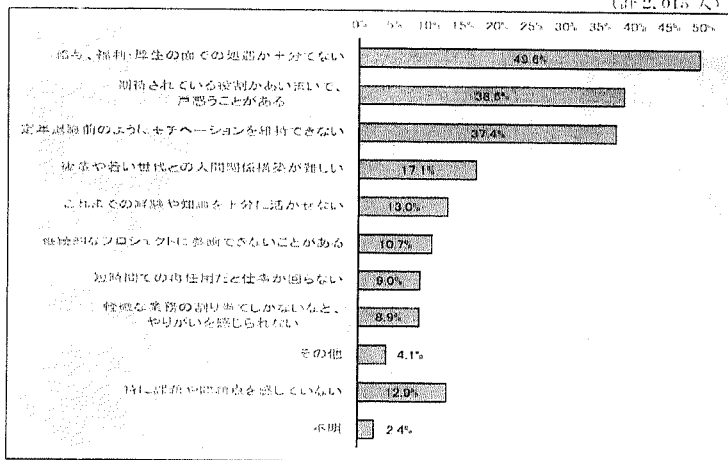


図31 世帯の平均収入月額、平均支出月額 (就労者2,493人、非就労者401人、計2,894人)

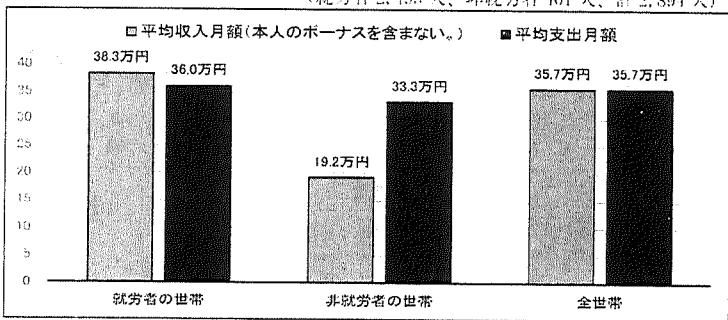
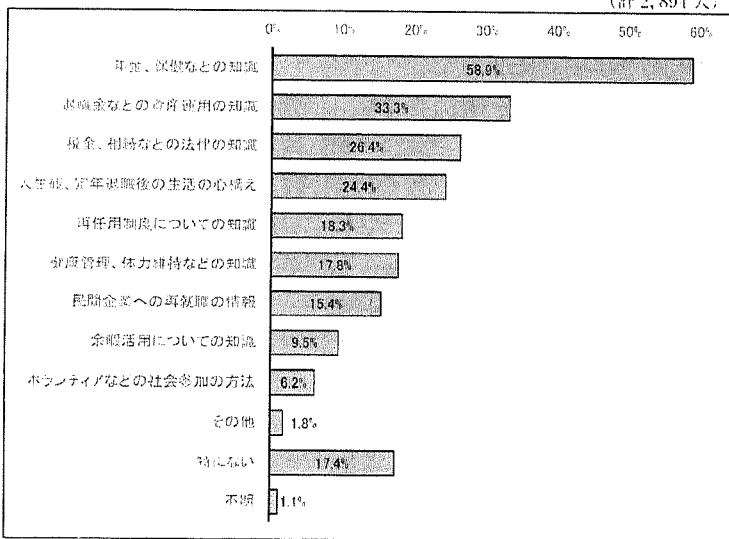


図42 定年退職前にもっと知っておけば良かったと思うこと (複数回答) (計2,891人)



「三〇〜三三万円でいいから現役の四〜五級相当ですよ。再任用だけではとても無理な額ですよ。」
 「確かに。本人の給与収入は約六割、四割は配偶者収入や年金保険等の収入となっている。その詳細が図三二、支出内訳が図三三だ。」
 「支出の四分の一は税と社会保険じゃ無いですか。」
 「ローン返済や子どもの教育費も大変ですね。」
 「現役世代のうちにしっかり考えておかないといけませんね。図四二に示すように退職者の立場にな

って、「定年退職前ももっと知っておけば良かったと思うこと」って項目の最上位に来るのが「年金、保険などの知識」だ。誰もが、必ず訪れる定年退職。今のうちから備え、老後に安心して暮らせる環境をつくるために、社会保障制度の改善や労働環境の改善のためにみんなが協力していくことが重要なんだ。そして、そのために労働組合がある

「民間七五%確保、公務は半額？」
 「なるほど。課題は賃金と仕事内容ですか。」
 「そのことは図二三で裏付けされている。」
 「お、「給与、福利厚生」「役割が曖昧」「モチベーション」が上位にきてますね。」
 「特に地整では、職務階を無視した業務分担になっている職場もあるからね。賃金面で見れば、現役時から一〜二級ダウンでの任用が大きな問題なんだ。退職と同一級でフルタイムの賃金が確保できるのに一〜二級ダウン、ハーフ任用で現役時の半額程度の賃

「金水準になっていく。民間では七五%程度確保されることになるから抜本的改善が必要だ、まずは、図二五にあるように三分の二が三級の実態を改善しないとイケないね。」
 「たしかに。でも誰が何級なのか解らないよ。」
 「整備局の場合、簡単だ。」

図25 行(一)俸給表が適用される再任用職員の職務の級 (計1,110人)

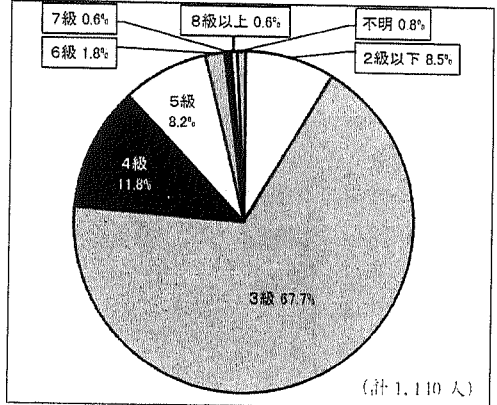


図32 世帯の平均収入月額の内訳 (計2,891人)

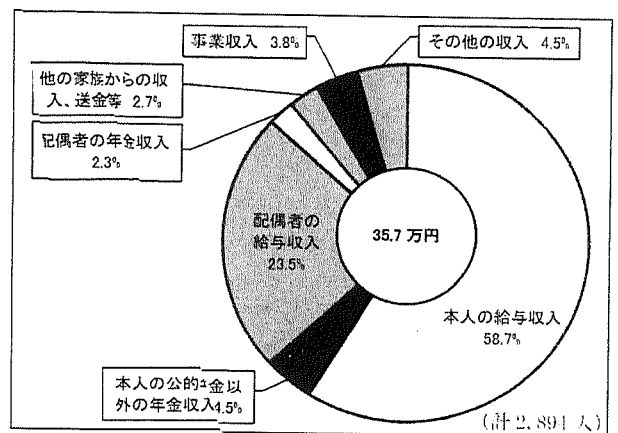
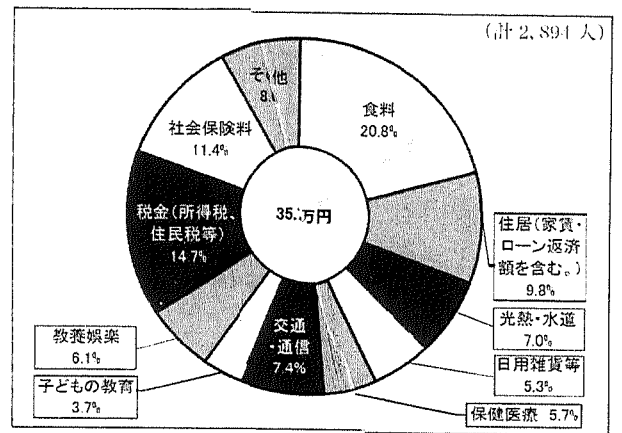


図33 世帯平均支出月額の内訳 (計2,894人)



東海建設支部では職場や組合活動に関する疑問や不満、提案等を募集しています。
 お気軽に、以下のアドレスまでご連絡ください。
 組合として必要な対応の他、質問は紙面等でも報告させていただきます。
 toukai_kikanshi@ybb.ne.jp